

postkarte.

内山愚童

六月一日

大平台

相州はるか

石川三四郎君

郵便便状

三十七号

松葉町監獄在監人

東京府下松葉町

23-1

71  
6204  
-8

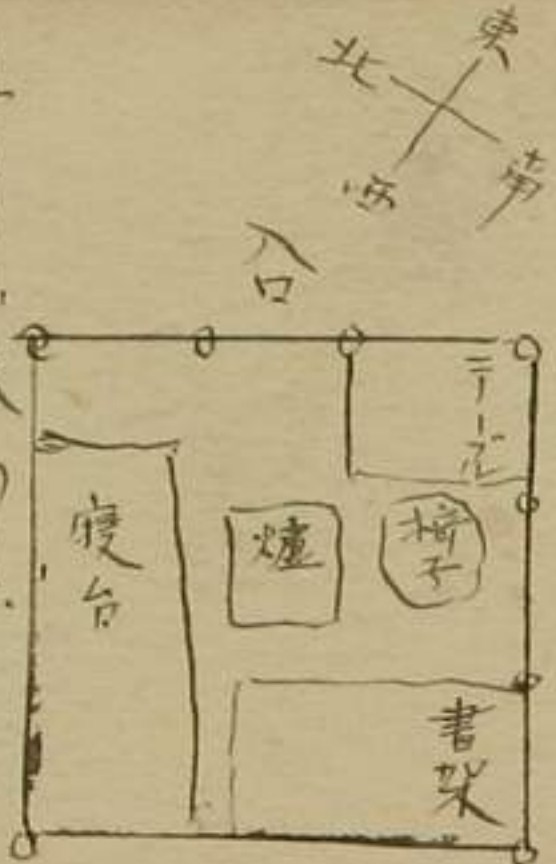


石川兄 足下 以何の天気で 頭が工居か わるい  
 ずいぶんか 社倉新庫の兄の 汝を見て安心し  
 ました 希い天か 兄と 映し 靖安の 歳中生活  
 を尤も有印と 過さしめよ

伊藤兄より 君の 家へ 時習(徳山を 行不行)を 望眼へ  
 送つたけれど 本人 不在となりて 返つて 来たさうだ  
 それに 君が 手元 車庫 整理に 付つた 様であつた  
 東京 警察 局の方へ 来た だしたと であつた

今年 三日の 午に 七時 電氣の 工夫と 土工が だま  
 イトを 扱つて 六時 一人の 工員が 奮闘し たり 僕が 此の 初めに  
 労働者の 勢力が 高くなる 者である と 告知した  
 君一人の 死者と 他に 傷者も 出つた けれど  
 親戚 族の 勢力が 高く せいで 喧嘩を したの だが  
 我等の 任務は 此の 勢力を 尤も 有産に 人力 莫  
 幸福の 者とする やりに 盡くして である

次に 僕が 目下 四疊半 生活をして 居るが 君を見て  
 くれ王へ 維新の 出来か 長びり されか



去年 山へ 入つて  
 生活する 様である

書見をして 三三三 三三三  
 の 窓より 東南を見れば  
 梨に 梅と 柿 甚に 月見草 石竹  
 などで 白く なる 庭の 辰草  
 には へん キヤヘツが 来ると 自ら  
 好物を 備へて あり かつ かつ  
 握りつゝ する こんど 田圃 趣味  
 も あり 庭 庭 庭 庭 庭 庭 庭 庭